

「人工股関節全置換術を対象にした関節可動域と歩行速度の関係」 についてのお知らせと研究協力をお願い

当院では以下の臨床研究を行っております。

【研究課題】

人工股関節全置換術を対象にした関節可動域と歩行速度の関係

【研究の概要、背景、目的】

本研究では、人工股関節全置換術を対象に、関節可動域と歩行速度の関係を調査します。人工股関節全置換術後の歩行は、股関節の運動範囲が狭くなっており、歩幅が減少し、歩行速度が低下しています。股関節の運動範囲を狭くする原因には、股関節の伸展可動域が関わっています。股関節の伸展可動域の測定には、骨盤を固定した方法と骨盤を固定しない方法とがありますが、どちらの方法がより歩行速度と関わりがあるかは明らかになっていません。本研究の目的は、骨盤固定と非固定における股関節の伸展可動域と歩行速度の関係を明らかにし、リハビリテーションに役立てることです。

【研究の期間】

2022年7月1日から2024年7月1日

【研究対象】

- ・人工股関節全置換術を受け、当院の外来リハビリテーションに通われている方
- ・歩行が自立し、術後3ヶ月と術後6ヶ月の方

【研究の方法】

当院のリハビリテーションでは、人工股関節全置換術の術前と術後1.5ヶ月、3ヶ月、6ヶ月に運動機能の測定を行っています。本研究では、その測定結果のうち、術後3ヶ月と術後6ヶ月のデータを部分的に2次利用し、研究を行います。

【利用する情報】

- ・基本情報（年齢、性別、身長、体重）
- ・医学的情報（診断名、既往的、手術記録、治療経過）
- ・骨盤固定と非固定における股関節の関節可動域
- ・通常歩行速度、歩幅、歩行率、歩行中の股関節運動範囲
- ・歩行時の痛み
- ・股関節の屈曲と伸展の筋力

【予想される利益、不利益】

利益として、歩行速度に影響する関節運動が判明し、歩行速度の改善に利用されます。起きうるかもしれない不利益には、筋力測定にともなう筋肉痛や歩行測定にともなう転倒があります。筋力測定では、徐々に力を入れることで、急激な負荷を避け、筋肉痛を予防します。歩行測定では、実生活の歩行様式と同様の歩行補助具を使用し、さらに、理学療法士がつきそうことで転倒を予防します。（なお、基本的に、本研究はデータを2次利用するものであるため、対象者の健康に新たな不利益が生じることはありません。）

【個人情報の取り扱いについて】

本研究の成果を、学術目的のために学会や論文で公表する際には、個人情報を厳重に守り、個人が特定されない形で使用します。

【研究協力の自由について】

研究への協力は自由意志であり、拒否をされた場合でも不利益はありません。協力を希望されない場合は、お手数をおかけしますが、ご連絡をお願いいたします。

【利益相反について】

本研究に開示すべき利益相反はありません。

【研究責任者連絡先】

総合病院土浦協同病院

リハビリテーション部 蛭原文吾

電話 029-830-3711（代表）